

8/18 丹羽

論説

2023-8-18

マイナ総点検

運用止めて見直さねば

ユーファルが相次ぐマイナカードを発行、政府が総点検の中間報告を公表した。「べきだものに膨らむ可能性がある」内閣室。

不完全な形態での導入進行は人命に關わる事例を招かない。政府は課題を「既存上」、現行保険証の線上操作をやめて、制度設計を全般的に見直すべきである。

総点検は、最初は年金の運用保険など十九分野について、マイナカードによる各種の個人情報が正しい手順で扱われれていたがどうかを調べ、不適切だった場合は、個別データを精査する。

中間報告では、誤った手順でひも付けをしていた自治体や国の機関は述べ五千機関以上いた。

個別データを精査しているマイナ保険証では新たに千六十九件の問題点が見つかり、公務員の年金共済や障害者手帳でもひも付けミスが発覚した。

マイナ保険証の新たな試験では、本人確認が不十分と國主市告した団体のもので、これですべて不正確ない。今後は介護保険など手帳からの分離でも個別データの精査が実施。中間報告は深刻な誤謬を示唆してはいない。

国際医療福祉士は運営会社の担当者時点の算計ですが、マイナ保険証に対する心からシストムを導入した医療機関の「べたべた」と不真合があつた。放送してはだねま。

混乱の原因は、政府のカード普及策は複雑化されてしまい、

ひも付けの「べたべた」で、拘束

太郎山タル相手は認治体など運営の「問題の発見」を指揮したが、確認体制を整備していないかった政

府の不手際も影響の一因だ。

中間報告はマイナ保険証の新たな問題点について、「直接データの0.0007%しかまだ未登録」してある、問題點は判明済みの分を含め八千件以上ある。人命に関わるハイリスク機関の「ひも付け機能」がまだ未整備だ。

総点検期間の十一月末までに個別データの登録完了を期する回数をなるべく減らす。政府は「行政手続が大幅に簡素化され、国民の利便性が向上する」と語ったが、現実を追及する

現実と直視すべきだ。